神にある成長

GROWING IN GOD

B.R. ヒックス

——聖書はすべて，神の霊感によるもので，教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。それは，神の人が，すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。——

——テモテ　II　3：16，17——

神にある成長

成長していることよりもすばらしいことが，他にあるでしょうか。自然の領域においても，また霊の領域においても，成長とは生命の発育が目に見えるかたちで現われたものです。何らかの理由で，正常な発育を妨げられた人たちを見ることは，非常に悲しいことです。使徒パウロはエペソ４：11～13で述べているように，成長の望みに燃え立っていました。

> こうして，キリストご自身が，ある人を使徒，ある人を預言者，ある人を伝道者，ある人を牧師また教師としてお立てになったのです。それは聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ，キリストのからだを建て上げるためであり，ついに私たちがみな，信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し，完全におとなになって，キリストの満ち満ちた身たけにまで達するためです。

モーセの幕屋として知られている旧約聖書の幕屋には，イエス・キリストの身たけの影や形が青写真として，詳細に啓示されています。旧約時代のモーセの幕屋は第１の幕屋であり，第２の幕屋である主イエス・キリストのひな型でした。（ヘブル９：９～11）従って，私たちは，モーセの幕屋を通して，イエス・キリストのうちに隠されているあらゆる知恵，悟り，知識の霊的原則を見い出すことができます。十字の形に並べられた７つの設備品によって，モーセの幕屋は十字架を表しています。十字架の下の部分にあたる庭には青銅の祭壇があります。そこで，いけにえがささげられ，イエス・キリストの血潮のひな型である血が流されました。そして，神の前から火が出て，そのいけにえを燃やしました。（レビ９：24）　この火は聖霊と火のバプテスマのひな型です。次に，同じ庭には青銅の洗盤があります。そこで祭司たちは１度全身を洗いました。（出エジプト29：４）これはイエス・キリストの死にあずかる水のバプテスマのひな型です。また，祭司たちは，毎日この洗盤に来て手と足を洗いました。

神が，ご自身の民イスラエルをエジプトから導き出された時にも，同じ霊的原則を見い出すことができます。神はエジプトで彼らにイエス・キリストの血潮を表す小羊の血を与えられました。（出エジプト12章）　イスラエルの民

のエジプト脱出が始まると，神は彼らに雲と火の柱を与えられました。（出エジプト13：21～22）コリントⅠ　10：2でパウロは，聖霊と火のバプテスマをさして「彼らは雲の中でバプテスマを受けた」と語っています。彼らをエジプトから解放した第3番目の体験は，紅海の体験でした。（出エジプト14：29～30）パウロは，そのことをバプテスマ（彼らは海でバプテスマを受けました。）であると私たちに語っています。これはイエス・キリストの御名による水のバプテスマのひな型です。血と火と水の体験は，イスラエルの民がエジプトから解放されるために与えられたものです。このようなことを通して私たちは，神にある霊的な成長の始まりが，個人であっても，国民であっても，血と火と水の体験から成り立っていることがわかります。つまり，この血と火と水はともに十字架の基本的な部分を形成しているわけです。

幕屋の次の部分，すなわち，聖所には3つの設備品があります。香をたくための金の祭壇（出エジプト30：1～6）は，イエス・キリストの名による祈り，聖霊のとりなしと産みの苦しみの祈りのひな型です。純金の燭台は，キリストのへりくだった思いの知恵と悟りと知識を描写しています。そして金でできた供えのパンを置く机の上には12個のパンが置かれていました。これはキリストの統治の力を表してい

ます。

聖所での祭司の体験は，エジプトからカナンの地までのイスラエルの旅の第２段階，つまり荒野での体験にあたります。この試みと試練の荒野にあって，神はイスラエルの民がつぶやく代わりに祈るか，又自分たちの肉の理論の代わりに神の知恵・悟り・知識の光によって歩むかどうかをご覧になりたかったのです。そして，彼らの弱い意志の代わりに神の統治の力で彼ら自らを養うかどうかを試みられたのです。（申命記８：１～10）　エジプトからカナンの地へのイスラエルの旅と旧約聖書に書かれている幕屋の中での祭司の体験は，両方とも，イエス・キリストの身たけにおける霊的な成長をたいへん美しく描写しています。このように，神にある成長の第２段階は，祈りと，知恵・悟り・知識の御言葉と，神の統治の力によって成り立っていることがわかります。この段階を通して私たちは，生活の中で神の支配（Headship）のもとに完全に服従することができるようになるのです。

次に幕屋の３番目の部分である至聖所を見ていくことにしましょう。至聖所には，契約の箱と贖いのふたがありました。（詳しいことは，Ｂ．Ｒ．ヒックス著PRECIOUS GEM IN THE TABERNACLE, Christ Gospel Press,1961. を参考してください。　P．O．Box 786，Jeffersonville,

Ind. 47130.U.S.A.）
そこは神の御座のある部屋です。神は，ここでイスラエルと会見し交わることを約束され，（出エジプト25：22）また，この場所からご自身がイスラエルの霊的な夫になることも約束されました。この関係を適切に示している「交わる」（Commune）という言葉には，整える，征服する，答える，指名する，指揮する，支配する，破壊する，与える，名づける，約束するなどの意味があります。言い換えると，神は契約の箱からご自身がイスラエルのかしらになり，夫になることを約束されたのです。イスラエルの旅の第3段階，すなわち，カナンの地に着いたということは，神があらゆることの中にあってかしらであることを完全に認めるまで成長することと，私たちの意志が神とそのひとり子イエス・キリストの御旨と一致することを表しています。

さて，ここでカレブとヨシュアの2人だけが，エジプトを脱出した第1世代の人々のうちで荒野の試みに耐え，生きてカナンの地に入ったことを思い出していただきたいと思います。イスラエルの民がエジプトで血潮を受けた時から，カナンの地をめざす彼らの旅が，始まったように，すべてのクリスチャンはイエス・キリストを救い主として受け入れ（血潮による赦しを受け）た時に信仰生活を始めることになります。しかし，前進するための幻に欠けている

ために，ある者は旅の途中—エジプト，あるいは，荒野—で脱落してしまい，カナンの地，つまり，イエス・キリストとの完全な霊的一致，霊的結婚関係に入ることができないのです。成長の第１段階（エジプト・幕屋の庭）や第２段階（荒野・聖所）で立ち止まるのではなく，第３段階であるカナンの地・至聖所を目ざして進んでいきましょう。

バプテスマのヨハネが，イエス・キリストについて「あの方は盛んになり（成長し）[注1]，私は衰えなければなりません。」（ヨハネ３：30）と宣言したとき，彼には成長に関するこの啓示が与えられていたのです。この短い句の中で私たちは，「古い肉の心は，新しい心の成長のために衰える。」という成長を表す青写真を見い出すことができます。私たちがイエス・キリストを個人的な救い主として受け入れるとき，キリストは私たちの罪をご自身の血潮によって洗い，私たちの古い心の中に新しい「幼子」の心を創造してくださるのです。この新しい心は完全であり，真理に基づく義と聖をもって神にかたどり造られています。（エペソ４：24）　そして，この心は神から生まれているので罪を犯すことができません。（ヨハネⅠ３：９）　けれども，私たちが救い主としてキリストを受け入れるときに，新しい「幼子」の心が創造されるということは，古い心が破壊されたということではありません。ただ，日々私たちが肉の心を

十字架につけることによってのみ，新しい心が成長するのです。パウロは毎日が死の連続であると宣言しています。（コリントⅠ15：31）　罪人は最初のアダムから受け継いだ墜落したサタンの性質しか持っていませんが，クリスチャンは，２つの性質，すなわち，新しい性質と古い性質とを持っています。信者の中で起きるこの２つの性質の闘いは実に激しいものです。使徒パウロは，ローマ７：15～20でこのように語っています。

私には，自分のしていることがわかりません。私は自分がしたいと思うことをしているのではなく，自分が憎むことを行なっているからです。もし自分のしたくないことをしているとすれば，律法は良いものであることを認めているわけです。ですから，それを行なっているのは，もはや私ではなく，私のうちに住みついている罪なのです。私は，私のうち，すなわち，私の肉のうちに善が住んでいないのを知っています。私には善をしたいという願いがいつもあるのに，それを実行することがないからです。……もし私が自分でしたくないことをしているのであれば，それを行なっているのは，もはや私ではなく，私の内に住む罪です。

22節でパウロは，「私は，内なる人としては，神の律法を喜んでいるのに」肉では，罪に仕えていると言っています。また，ガラテヤ５：17でも，すべての信者が経験する肉の人と霊の人との闘いを見ることができます。

> なぜなら，肉の願うことは御霊に逆らい，御霊は肉に逆らうからです。この２つは互いに対立していて，そのためあなたがたは，自分のしたいと思うことをすることができないのです。

イエスさまご自身も，これら２つの性質を悪い実を結ぶことのできない良い木（霊的な心）と良い実を結ぶことのできない悪い木（古い肉の性質）のたとえを用いて説明しておられます。マルコ７：21～23でイエスさまは，肉の心から溢れ出る堕落をこのように述べておられます。

> 内側から，すなわち，人の心から出て来るものは，悪い考え，不品行，盗み，殺人，姦淫，貪欲，よこしま，欺き，好色，ねたみ，そしり，高ぶり，愚かさであり，これらの悪はみな，内側から出て，人を汚すのです。

ヤコブは聖霊によって，その２つの性質を甘い水と苦い水を同じ穴からわき上がらせるような泉にたとえています。（ヤコブ３：11）　甘い水は新しい人から流れ，苦い水は古い人から流れるのです。ヤコブは，このことについて，「私の兄弟たち。このようなことはあってはなりません。」と語っています。確かに，私たちすべての者が，このようなことがあってはならないという点では，ヤコブに賛成することができます。しかし，このようなことをどう解決すべきかが問題なのです。再び「毎日が死の連続である。」というパウロの証言を取り上げて見ましょう。彼は，いったい，何に対して死んでいたのでしょうか。彼は，自分の肉の人にあって，肉の心の中に死を体験していたのです。エペソ４：22～24で，パウロはこの啓示に燃えて次のように語っています。

> その教えとは，あなたがたの以前の生活について言うならば，人を欺く情欲によって滅びて行く古い人を脱ぎ捨てるべきこと，またあなたがたが心の霊において新しくされ，真理に基づく義と聖をもって神にかたどり造り出された，新しい人を身に着るべきことでした。

成長とは，要約して言えば，古い人の堕落したサタンの性質を脱ぎ捨てて，新しいキリストの性質を着るということです。

「では，どうすれば肉の性質を死に至らせて，成長できるのでしょうか。」とあなたは尋ねるかもしれません。そうです，神はご自身の愛と憐れみによって，血と火と水という豊かな備えをしてくださったのです。悔い改めてこの血と火と水による聖めと力を受けることによって，私たちはアダムの性質，すなわち，私たちの肉を十字架につけることができます。イスラエルの民がエジプトから脱出するために，血と火と水の体験が必要であったように，私たちが，この世のエジプトから救い出されるためには，イエス・キリストの血潮と，聖霊と火のバプテスマと，主イエス・キリストの御名による水のバプテスマの体験が必要です。この3つの体験は，私たちの霊的な建物の土台を構成するもので，この土台の上に金と銀と宝石の建物を築き上げなければなりません。普通，建物は完全な土台なしに建てられるものではありません。ある人々は，血潮の上だけに建物を築こうとします。また，血潮と火という土台の上に築こうとする人々もいます。しかし，完全な建物を築くためには，血と火と水という完全な土台を持たなければなりません。使徒パウロは，「私は，賢い建築家のように，土台を

据えました。……しかし，どのように建てるかについては，それぞれが注意しなければなりません。』と語っています。というのは，イエス・キリストという土台以外に他の土台を据えることはできないからです。この血と火と水という土台は，イエス・キリストがご自身の死をもって，据えられたものです。そして，私たちには，その土台の上に金，銀，宝石で，建て上げる特権が与えられています。

キリストのさばきの座において，私たちの建物は火の中に入れられ，木，草，わらなどの肉の行ないは，すべて燃えてしまいます。(コリントⅠ３：10～15)ところが，神の御旨による働きは，金，銀，宝石として火に耐えるのです。火はすべての人の働きの性質を明らかにします。その日，人が正しいと確信していたものを火が飲み込んでしまって，それが，自分自身の高ぶった意志から生じた肉の働き以外の何ものでもなかった，ということが明らかにされたら，どんなに驚きうろたえることでしょう。しかし，すばらしいことには，もし私たちが，今，肉の働きである木，草，わらが，聖霊の火によって焼かれることを願うならば，私たちは土台の上に，さばきの火に耐え得る，神の御心の，金，銀，宝石を築き上げることができるのです。

使徒パウロは，あなたがたも，カナンの地，至聖所，イエス・キリストの花嫁，あるいは，霊的に成熟して，主イ

エス・キリストと完全に一致する，という賞を受けられるように走りなさい（コリントⅠ９：24）と忠告しています。普通の結婚式には，花婿と花嫁以外の人々，たとえば，花婿の付き添い，花嫁の付き添い，招かれた客などが大勢いますが，同様に，小羊の婚礼の祝宴にも，イエスさまと花嫁の他に，娘たち（マタイ25：１～10，雅歌６：８），花婿に付き添う友人（ヨハネ３：29），客たち（マタイ22：10）などがいます。しかし，小羊の婚礼の祝宴で中心となるのは，すべてを売り払って，小羊と共に歩み続けた花嫁です。（雅歌６：９，黙示録19：７～８）　花嫁はエジプトというこの世を捨て，荒野で肉の行ないを捨て，イエス・キリストにつき従い，キリストと１つになって，乳と蜜の流れるカナンの地に入りました。これが十字架の道を歩む喜びなのです。このために，私たちは，熱心に肉の人を脱ぎ捨て，イエスという新しい人を着ようとしています。また，断食し，祈り，イエス・キリストのようになりたいと願います。そして，その賞の輝きのゆえに，イエス・キリストが私たちに要求する全てのことを行なうことが，容易になるのです。

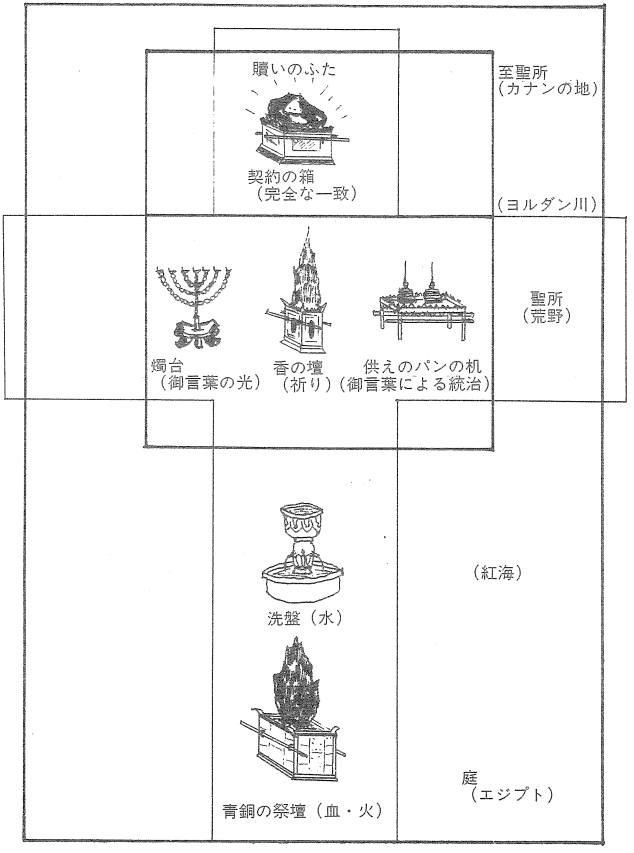
神の御言葉には，信者のための永遠の住まいが３つ書かれています。新しい天と新しい地と新しい都です。イエス・キリストの身たけにおいてどのくらい成長するかが，どこ

で永遠をすごすかを決定します。白衣（ white robes)[注2] を着て（黙示録７：９）永遠で，新しい天にある神の宮にとどまる人々がいます。さらに進んで聖所，すなわち，統治の領域まで成長する人々がいて，彼らは白い衣 (white raiment)[注3] を着て，新しい地で治めるものとなります。(黙示録４：４）　しかし，新しい都，すなわち，新しいエルサレムに住むのは花嫁です。彼らは至聖所まで成長し，カナンの地まで到達して，主イエス・キリストと１つになった人々です。これらの人々は，新しい都から主イエス・キリストと共に，永遠で支配し治める者となります。花嫁は白い麻布 (fine linen)[注4] を着て（黙示録19：７，８）患難の時代の終りに，地上で1000年の統治を始めるために，イエス・キリストと共に白い馬に乗って天から下って来ます。1000年間，キリストと共に治めた後，花嫁は新しい都にはいり，そこで永遠に神とあらゆる点において１つとなります。私たちが走って獲得する賞のすばらしさは，想像にあまりあるものです。パウロがこのように叫んだときの熱意に耳を傾けてください。

> 兄弟たちよ。私は，自分はすでに捕えたなどと考えてはいません。 ただ， この一事に励んでいます。すなわち，うしろのものを忘れ，ひたむきに

前のものに向かって進み，キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために，目標を目ざして一心に走っているのです。（ピリピ３：13～14）

イエス・キリストの花嫁という幻が，私たちをかりたて走らせるのです。この幻が，私たちに，キリストを得るためにすべてのものをちりあくたと思わせます。（ピリピ３：８）神の御言葉の胸を躍らせる喜びとは，イエス・キリストを知り，イエス・キリストを愛して彼と１つになり，イエス・キリストと霊の一致を体験することなのです。


贖いのふた
至聖所
（カナンの地）
契約の箱
（完全な一致）
（ヨルダン川）
聖所
（荒野）
燭台
（御言葉の光）
香の壇
（祈り）
供えのパンの机
（御言葉による統治）
（紅海）
洗盤（水）
庭
（エジプト）
青銅の祭壇（血・火）

—訳者注—

注1.「盛んになり」ヨハネ3：30

ギリシア語で「アウクサノー」といい,「成長する」ことを意味しています。

参照：コリントⅠ3：6，7　，コリントⅡ9：10

注2.「白衣」　黙示録7：9

新改訳聖書では，白い衣について明確に区別をしていませんが，原語（ギリシア語）を見ると明らかになります。

文中では,「白衣」「白い衣」「白い麻布」と区別しました。

欽定訳聖書では"white robes"

"robes"　は原語で「ストレー」で,「高位の印としての長い衣・外衣」を意味します。

参照：ルカ15：22，20：46，黙示6：11，黙示7：13，14

注3.「白い衣」　黙示録4：4

欽定訳"white raiment""raiment"　は「ヒマティオン」で「衣服」をあらわします。

参照：マタイ11：8，17：2，27：31，マルコ9：3，ルカ7：25，23：34，ヨハネ19：24，使徒18：6，22：20，黙示3：5，18

注4「白い麻布」　黙示録19：7，8

欽定訳"Fine linen"

"Linen"は原語で「ブッスィノス」「亜麻布でできた服」「麻布の衣」です。

参照：黙示18：16，19：8，14

Property of Christ Gospel Churches Int'l., Inc.

Growing in God

By

B.R. Hicks

Copyright

（c） Christ Gospel Churches International, Inc.

P.O. Box 786　Jeffersonville. Indiana 47130

Original English language edition was published

By Christ Gospel Churches International, Inc.

Japanese translation rights have been given to

Christ Gospel Church, Japan.

神にある成長

1980 年 8 月発行

著者　B. R. ヒックス

訳者　クライスト・ゴスペル・チャーチ

（c） 1980　Christ Gospel Church, Japan

発行　クライスト･ゴスペル・チャーチ

発行責任者　　西川了一

住所　　東京都福生市加美平 1 丁目 16 番地 6　アビタ 21

電話 042(553)2096

　　042(581)8954